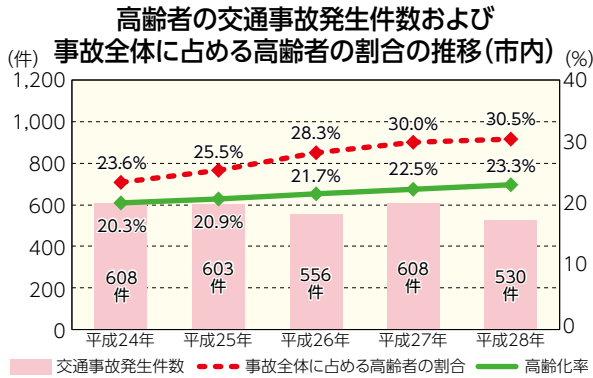
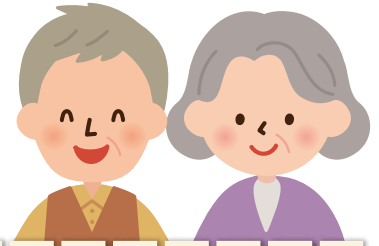




高齢ドライバーの交通事故を防止しましょう

高齢化の進展に伴い、年々高齢ドライバーは増加しています。そのような中、全国的には、高齢ドライバーによる重大な交通事故が発生し、社会問題となっています。

悲しい事故に遭うことなく、これからも元気に暮らしていけるように、高齢ドライバーと家族の皆さんで、安全運転などについて一緒に考え、話し合ってみましょう。



高齢者の事故の割合が増加しています

本市の交通事故は減少傾向にあります。高齢者の交通事故についても減少傾向がありますが、高齢化が進むとともに、事故全体に占める高齢者の割合は年々高まっています(上の図)。

家族と一緒にチェックしてみましょう

「最近ブレーキを踏むときの反応速度が遅くなって

きた」「車庫入れに失敗した」など、運転について気になることはありませんか。視野や反射神経などの身体機能や、記憶や注意力などの認知機能は、加齢に伴い、変化していきます。

右の運転行動チェックリストは、高齢ドライバーの運転能力と認知機能を調べるためのものです。現在の運転の状態に当てはまる項目がないかチェックしてみましょう。高齢ドライバーの家族は、時々車に同乗し

て、確認してみましょう。高齢ドライバーと家族と一緒に運転をチェックしてみ、認識に差がないか確認してみることが大切です。

運転を続けるときは

人は、高齢になると、視野が狭くなったり、判断や反応が遅れたりするなど、若い頃に比べて機敏な行動を取れないことが、事故原因の一つとして考えられています。高齢ドライバーは、身体機能などの変化を自覚

運転行動チェックリスト

項目	運転行動チェックリスト	解説
	行き先・目的地を運転中忘れる	「もの忘れ」の兆候があります。悪化すれば、今どこを走っているか、分からなくなる可能性があります。
	中央線・センターラインの不注意	距離感などを把握する「空間認知能力」の低下の兆候があります。悪化すれば、対向車との衝突事故などを起こす危険性があります。
	車庫入れ・枠入れの失敗	距離感などを把握する「空間認知能力」の低下の兆候があります。悪化すれば、自損事故や衝突事故などを起こす危険性があります。
	道路標識・信号機の理解	「理解力」あるいは「感情を抑制する力」が低下している兆候があります。悪化すれば、標識・信号の無視による事故を起こす危険性があります。
	速度制限・速度の維持	「集中力」あるいは「感情を抑制する力」が低下している兆候があります。悪化すれば、スピードの出しすぎによる事故を起こす危険性があります。
	交通環境への注意力維持	「注意力」・「集中力」の低下の兆候があります。悪化すれば、他の車や自転車・歩行者を巻き込む事故などを起こす危険性があります。
	運転操作(ブレーキ・ギアチェンジなど)	「集中を維持する力」が低下している兆候があります。悪化すれば、ブレーキとアクセルの踏み間違えによる事故などを起こす危険性があります。
	自動車のメンテナンス(ガソリン・オイルなど)	メンテナンスのし忘れが頻発していれば「もの忘れ」の兆候があります。悪化すれば、路上でのガソリン切れ、エンジン停止などの危険性があります。
	他の交通者への注意維持(歩行者・自転車など)	「注意力」・「集中力」の低下の兆候があります。悪化すれば、他の車や自転車・歩行者を巻き込む事故などを起こす危険性があります。
	車間距離の維持	距離感など「空間認知能力」や、前方の車と適切な距離をとる「判断力」が低下している兆候があります。悪化すれば、前後の車と衝突する事故などを起こす危険性があります。

提供 上村直人さん(高知大学医師)

◎バス車内事故防止キャンペーン実施中 バス走行中に座席を離れると、転倒などで思わぬけがをすることがあります。降り際には、バスが停留所に着いて扉が開いてから座席を離れてください。また、バスはやむを得ず急ブレーキをかける場合があります。ご利用の際は、つり革や手すりなどにしっかりつかまってください。☎交通政策課 ☎(632)2160

事故が起きてからでは手遅れです

石井地区交通安全推進協議会会長 吉澤 善一さん

私は、交通安全推進協議会の一員として、特に子どもや高齢者を交通事故から守ろうという思いで、地域での街頭活動やストップマークの塗布などの交通安全活動を行っています。

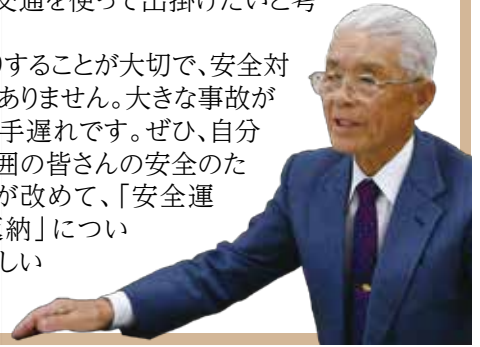
最近、高齢者による痛ましい事故の報道をよく目にします。私自身は、運転するとき、一時停止では大げさなくらいしっかり止まる、十分に周囲の安全確認をするなど、交通ルールをきちんと守りながら、毎回気を引き締めてハンドルを握るよう心掛けています。

高齢になると、ブレーキのタイミングが遅くなったり、視野が狭くなったりしますが、意外と自分では、それらの変化に気付きにくいものです。市では、7月から新たに身体機能測定器を交通安全教室に導入するそうなので(下記参照)、私たちの地区でも、早速教室を開催してもらう予定です。客観的に自分の身体機能をチェックできるので楽しみです。

また、高齢者の交通事故を防ぐためには、家族も一緒に取り組むことが必要だと思います。万が一事故を起こしたら、自分だけでなく、家族にも大きな影響があります。私も、いつまで運転するかということを、時々妻や子どもと話し合っています。

運転に不安が出てきたときは、勇気を持って免許の自主返納を決断することも大切だと思います。「運転をやめたらどこへも行けなくなる」、「どのような生活になるか不安だ」などという声を聞きますが、私たちの身近には、さまざまな公共交通があります。私も免許証を返納したら、公共交通を使って出掛けたいと考えています。

安全は先取りすることが大切で、安全対策にやり過ぎはありません。大きな事故が起きてからでは手遅れです。ぜひ、自分自身や家族、周囲の皆さんの安全のため、一人ひとりが改めて、「安全運転」や「免許返納」について考えてみてほしいと思います。



し、日ごろから十分安全確認を行うとともに、時間と心に余裕を持った運転を心掛けてください。なお、70歳以上のドライバーは、車に高齢運転者標識を付けるよう努めましょう。身体機能・認知機能は、年々変化していきます。現在安全運転に自信のある人も、定期的に運転行動チェックリストを使いながら、運転の状態を確認するようにしましょう。

運転に不安を感じたら

運転に不安を感じるときは、交通事故を起こす可能性のある危険な状態かもしれません。運転免許の自主返納についても、検討してみたいかがでしょうか。

運転免許の自主返納制度

運転免許は、ドライバーが自ら申請して、取り消し(自主返納)を行うことができます。なお、運転免許証を返納された人は、返納した日から5年以内であれば、「運転経歴証明書」を申請でき(手数料あり)、身分証明書などとして使用できます。自主返納の手続

きについて、詳しくは、各警察署へお問い合わせください。

家族も一緒に考えてみましょう

車の運転をやめたら、高齢ドライバーや家族の日常生活に何らかの影響があるかもしれません。とは言い、最も優先すべきことは、高齢ドライバーの安全確保です。家族で話し合い、今後も運転を継続するかどうか一緒に考えてみましょう。

その際、家族は、高齢ドライバーが運転する「目的」や「意味」を知り、思いを共有することが大切です。今後の例も参考にしながら、今後のような支援が必要になるか、考えてみましょう。

交通安全教室を開催しています

市では、高齢者を対象とした交通安全出前講座を開催しています。新たに、身体機能測定器を使って反応



▲身体機能測定器を使った反応速度チェック

速度を測定し、自分の身体機能の現状を確認しながら、今後の安全行動について考えるメニューを始めます。寸劇や講話なども行っていますので、詳しくは、生活安心課(632)2264へお問い合わせください。

いきいき70高齢者専用バス乗車券

市では、高齢者が外出するきっかけづくりとして、70歳以上の人を対象に、1年度1回5000円相当分の高齢者専用バス乗車券などを交付しています。詳しくは、高齢福祉課(632)2360へお問い合わせください。

4 ④生活安心課(632)2264